

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
総合研究報告書

歯・口腔の健康と全身の健康に関する研究

分担研究者 三浦宏子 北海道医療大学歯学部保健衛生学分野 教授

研究要旨

歯・口腔の健康と全身との健康との関連性について、系統レビューおよびメタ分析で分析したところ、成人期の咀嚼は肥満との関連し、成人期の歯の喪失が高血圧のリスクとなりうること、および歯の喪失がフレイルリスクとなることを明らかにした。

A. 研究目的

歯・口腔の健康は食物摂取に直接的に関係し、その良否は食生活に影響を与える。そこで、咀嚼と歯の喪失状況に着目し、成人・高齢期の生活習慣病やフレイルのリスクとの関連性を報告している研究知見を収集し、系統的レビューおよびメタ分析を行うことによって、歯・口腔の健康が全身の健康にどのような影響を与えるかを調べた。

B. 研究方法

PRISMAガイドラインに基づく系統的レビューとランダム効果メタ解析によって、エビデンスの集約化を図った。

(倫理面への配慮)

本研究では、公開している二次資料やデータを用いた分析を行ったため、個人情報を取り扱うことはなかった。

C. 研究結果

いずれの系統的レビューにおいても、抽出された論文の多くが横断研究であり、RCT研究は少なかった。初年度の研究では、系統

的レビューによって、成人における咀嚼と肥満との間に正の関連性が認められた。

2年次の研究では、系統的レビューによって、成人において歯の喪失が多い者は、歯の喪失が少ない者よりも高血圧の割合が有意に高率であり、収縮期血圧が有意に高いことが示された。また、コホート研究においても、観察期間中に歯の喪失が多い者では血圧の発症率が有意に高かった。

3年次の研究では、系統的レビューおよびメタ分析によって、高齢期の歯の喪失がフレイルリスクを高めることが示された。

D. 考察

これまでも歯科疾患と生活習慣病の間には共通リスクがあることが報告されており、国が進めるコラボヘルスにおいて歯科疾患の予防対策が進められてきた。本研究の結果、歯の喪失および咀嚼機能の状態が肥満、高血圧、フレイルのリスクであることが示唆されたことは、歯科疾患だけでなく歯の喪失状況および咀嚼機能の評価を継続的に行うことが、生活習慣病やフレイル予防対策にも寄与すると考え

られた。

E. 結論

歯の喪失や咀嚼機能を評価することは、生活習慣病およびフレイル予防対策を効果的に進めるために有効であることが示唆された。

F. 研究発表

1. 書籍発表

三浦宏子. 歯科保健指導ハンドブック
第2版. 医歯薬出版. 東京. 2024 (印刷
中).

2. 学会発表 該当なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし